

## 下野市第2回子ども読書活動推進計画策定委員会 議事録

審議会等名 平成30年度 下野市第2回子ども読書活動推進計画策定委員会  
日 時 平成30年11月13日(火) 午前9時30分から11時30分まで  
会 場 下野市役所 3階 303会議室  
出席者 坪山委員長、有野副委員長、倉井委員、坂口委員、晴山委員、下山委員  
落合委員、所委員、  
【欠席委員】城鳥委員、海老原委員  
市側出席者 (事務局) 坪山教育次長、手塚課長、伊澤館長補佐、角田主幹、大門主幹

公開・非公開の別 ( 公開 ・ 一部公開 ・ 非公開 )

傍聴者 なし

報道機関 なし

議事録(概要) 作成年月日 平成30年11月30日

### 【協議事項等】

- 1 開会<手塚課長>
- 2 委員長あいさつ<坪山教育次長>
- 3 議事

(1) アンケート調査結果について

### 【質疑等】

坪山委員長 事務局説明をお願いします。

事務局 資料1、資料2により説明。

—資料1 下野市子どもの読書活動推進に関するアンケート結果(0～6歳の乳幼児を持つ保護者)—

—資料2 下野市子どもの読書活動推進に関するアンケート結果(市内小学2年・小学5年・中学2年)

坪山委員長 この結果を踏まえ、委員のみなさんから意見等をお願いします。

下山委員 「あなたは本が好きですか」では、小中学生とも「好きです」は多いが、本が好きでも図書館で借りて読むかとなるとそうではない。特に中学生は本が好きだが忙しくて時間がとれないなど、本当は本が好きだが借れない、あまり読まないになってしまうのが残念だと思う。

坂口委員 図書館で借りるのは短い昼休み時間帯が多く、放課後は部活動へ行ってしまう。また、宿題や塾もあるので、なかなか本を読む時間が取れないのが現実である。

坪山委員長 中学生の「あなたは1か月間にどのくらい本を読みますか」という設問に対し、「0冊」が16.5%というのは問題である。

所委員 次回に向けてだが、本という活字媒体もあるが電子図書も読むことができるので、特に中学生の次回アンケートに電子図書を盛り込むと良いのではないか。

坪山委員長 アンケート調査結果が、このあと第三次計画の課題へと移行し対応策として専門部会で検討している。その他質疑等ないか。ないので、議事を進行する。

(2) 二次計画と三次計画の事業比較について

### 【質疑等】

委員長 事務局説明をお願いします。

事務局 資料3により説明。  
—資料3 二次計画と三次計画の施策体系の比較—

坪山委員長 第三次計画の基本理念や基本方針については国の第四次計画を基にして作成した。具体的な方策としては4つの新規事業を加えた。みなさんから意見等をお願いします。

所委員 図書館・地域における子どもの読書活動の推進と普及啓発となっているが、国は地域でひとくくりとして表示している。国に準拠するのか、下野市の独自性を活かすのか。

事務局 確かに国と下野市で相違はあるが、みなさんで決めていただきたい。

下山委員 地域だけではなく、図書館・地域の方が良いと思う。

坪山委員長 図書館がメインとなって読書活動を推進するため、図書館・地域の方が分かりやすいと思うが、いかがか。これが基になり第三次計画に入っていく。基本的な国の第四次計画を取り入れながら第二次計画の反省点を踏まえて、この第三次計画の施策体系図で進めさせていただく。

### (3) 第三次計画(案)について

#### 【質疑等】

坪山委員長 事務局説明をお願いします。

事務局 下野市子どもの読書活動推進計画(第三次)(案)について説明する。  
—第1章子どもの読書活動推進計画(第三次計画)の策定に当たって—  
—第2章これまでの取り組みと課題—  
—第3章第三次計画の基本的な考え方—  
—第4章子どもの読書活動推進のための具体的な取り組み—により説明。

坪山委員長 この第三次計画は2か年計画とさせていただく。図書館基本計画は平成33年度から新しくなるため、子ども読書活動推進計画も第四次計画というかたちで合わせていくことになる。調査から読書量の増加について小学生は平成25年度は8冊、平成30年度は10冊と2冊増加したが、目標値12冊には達成できなかった。そして中学生は平成25年度4.2冊から平成30年度3.5冊と下がってしまった。やはり、この状況も一つの課題と言える。また、不読者についても小学生は2.1%から1.6%とかなり減っているが、中学生はやはり12%から16.5%と増加している。中学生の国の目標値は8%以下、下野市は10%以下という目標値になる。第三次計画の課題として、読書量を増やしていく、不読者を減らしていきたい、この2点を今回の課題ということで第三次計画を作成させていただいた。専門部会で検討して案が出来たが、この内容について意見をいただきたい。

所委員 目標値は2年では難しいと思う。問題は中学生の不読率であり1冊でも読んで欲しいので、中学生の不読者をなくすために、例えば読みたい本がどういふものなのかアンケートをとるなど。

事務局 学校図書館訪問で実際にどのような本が借りられて、どのような本がリクエストに挙がっているかということのを参考に中学生が希望するような本を受け入れるということで、反映はされている。

所委員 受け入れた後、定期的に中学生に向けて、中学校へ発信してはいかがか。

事務局 ヤングアダルト向けお薦め冊子と図書館だよりで毎回、数は少ないが十代にお薦めの本ということで紹介はしている。

所委員 全員に配布しなくてもいいので、学校図書館のところにポスターのような掲示物を作成してみてもどうかと思う。少しでも中学生の不読者を減らすために、そのくらい中学校を重点的に取り組まないと10%以下の目標は厳しいと思う。

事務局 図書館に持ち帰り検討する。

下山委員 学校図書館に掲示しただけでは、中学生の末端までは行き届かない。学校は図書館担当の先生などが各クラス分を印刷して、クラスに掲示すれば、もっと生徒の目につきやすいのではないか。

事務局 図書館ではなく学習室に掲示してはいかがか。

下山委員 目に付いて欲しい。

坪山委員長 学校図書館だけに重きを置くのではなく、色々なところに掲示するほうが良いのではないか。

坂口委員 給食を食べてそのあと帰りの会をやりつつ5時間目まで10分しかなく、すぐ5時間目が始まってしまう。やはり各クラスに掲示すれば全員の目に付くと思う。図書館に行く生徒は本を読んでいる。行けない生徒が読まないの、行っていない生徒に対して目にふれるものがあることが必要だと思う。本を読まない生徒は、とにかく図書室に足を運んでいないと言えるので、学校のほうでも考えていかないといけない。

坪井委員長 小学校の方はいかがか。

倉井委員 小学校では担任が1年生を図書室に連れていく。そして、本を借りることが習慣化しているので、ほぼ読んでいると言える。ただ、この目標値の12冊は先生方は知らないと思う。なので、小学校も図書室で良いので、掲示するとか、図書委員会の児童が放送で呼びかけるとかは、できるので、図書館担当者へ知らせていただき図書館と連携を図っていきたい。

事務局 11月に学校図書館との研修会を開催するので、その時にはお知らせをしたいと考えている。

坂口委員 私もこのような会議に出席しなければ、目標値などは分からなかったと思う

倉井委員 図書館担当者にも伝えていただきたいと思う。小学校であれば例えば12冊読みましようとして図書室に掲示してくださいと言っていただければ良いかなと思う。

坪山委員長 では、事務局で学校の図書館担当者などに周知することとする。

晴山委員 私は石橋のおはなし会でボランティアとして小学校に読み聞かせに行くのだが、学童保育の児童とも接していて、各学年の教科書を見せてもらう。その時、教科書に掲載されているお薦め本があり、それを見て次回の本を選んだりしている。子ども達にそのことを聞くとみな知らないと言う。中学校では購入しているとなっているが子どもたちは教科書に載っている読みたい本を手にする機会が石橋図書館に聞いた時にはなかった。小中学校の図書室には教科書に載っている本やお薦め本があるのか。

事務局 晴山委員 小学校にはある。そういう身近なところで子どもたちがこの本は教科書に載っている本だということかたちで知りえる、あと学校の先生がお薦めしてはいかがか。文系でも体育系でも、あまり本から知識を得ようとしていない。今、やっていることに関係しているものの本にかかわれるように先生が身近なところで薦めていくという方向をとっていただきたい。

事務局 中学校に関しては、やはり部活動をしているので、中学校の図書室にはそれに関する本をかなり入れてあり、今、活躍している選手にかかわる本やスポーツのルールブックを入れるとその部活をやっている子たちには、すごく借りられている。中学校では、そういった取り組みをどこの学校もしていただいている。

晴山委員 体育系以外もか。

事務局 美術や合唱など、数は少ないが入れてある。やはり部活動から興味がわくということもあるため、中学校の図書館担当の先生も色々工夫をして、物語だけではなく、そういうものも入れている。

坪山委員長 本を買う際に先生の推薦する本も参考にしながら買っているのか。

事務局 学校図書館では、そのようにしている。

所委員 晴山委員が言われた教科書に載っている本を年に1回くらい教科書に載っている本ですという紹介があっても良いのではないか。ひとつの図書館である程度集めて、それを石橋・国分寺・南河内ということでまわして月に1回のイベントをしても良いと思う。そのあと、学校へ持ちまわっても良いと思う。

倉井委員 小学校の国語の教科書では、ページ数も限られているので、ぎっしり文章もあり絵もあるが、本はきちんと大きく1面になっていて次の場面もみえない。だから子どもにとってやはり本のほうが読みごたえがある。読み聞かせの方々が本を読んで下さると、子どもはものすごく飛びつく。知っている内容でも。なので、今の意見は有難い。

下山委員 教科書に載っているのは勉強のための本だと思うので、本と教科書は別ものと思っている。先生が本当の本はこれだと読んであげると良いと思う。

坪山委員長 みなさんから良い意見をいただいたので、計画の中に組み入れていきたい。整理させていただくと、教科書に載っている本の展示を3館で行う。また、図書館に入った新着本やお薦めの本の紹介をすることだが、毎月は厳しいと思われるので2～3か月に1回でよろしいか。小学生向けと中学生向けを作成し著作権の関係から本のタイトル等のみとする。

倉井委員 小学生は、国分寺なら国分寺図書館のものだけにさせていただかないと帰宅後、家族にうまく伝わらない。その地区の図書館だけで良いのかもしれない。

事務局 各地区の図書館、もしくは3館で入っているものであれば、大丈夫である。予約で取り寄せることも可能だ。図書館に行ったときにその本があるほうが良いとなれば、地区の図書館である。3か月に1回でよければ季節ごとに出せるので、そういったかたちとして、新着・お薦め本ということで、小学校は学校図書館に送らせていただく。中学校は、後日、図書館担当の先生と協議したうえで決めさせていただく。また、確認だが、今回いただいた意見の

修正については委員長・副委員長に一任とさせていただくということによろしいか。

(全委員承認)

坪山委員長

それでは、今、いただいた意見を計画の中に組み込ませていただき、第三次計画というかたちで進めさせていただく。このあと、パブリックコメントを実施し、意見を募りたい。そして、最終的に第三次計画の決定をしていただく。他に質疑等ないか。なければ、策定委員会を終了とする。

4 その他  
事務局

次回の開催は、1月下旬を予定する。